

Mr. Bassman (ベースマン列伝) Vol.59

ジャズにおいてベース弾きとは、縁の下の力持ち、水先案内人といったやや日陰の存在。おまけに、ウッドベースなら持ち運びも大変…。だが、黙々とベースをウォーキングさせ、バンドをスイングさせることに魂を注ぐベースマンが、一度化けの皮を剥ぐともうの凄い名演・名盤が生まれるのだ。このコーナーでは、そんなジャズ・ベースマンの偉業を称えるとともに、ジャズ・ベースの素晴らしさを伝えていきたい。

Cleveland Eaton 【クリーヴランド・イートン】



Photo taken by Janet Stevenson of Cleve Eaton

Profile

1939年8月31日、米国アラバマ州フェアフィールド生まれ。本名は Cleveland Josephus Eaton II。5歳の時にピアノ、8歳までにサクソックス、10歳までにトランペットを演奏。15歳の時に音楽教師ジョン・スプリングーにチューバとベースを勧められる。音楽で学士号を取ったテネシー A&I 大学のジャズ・グループで演奏。その後、シカゴに移り、アイク・コール・トリオでツアーを行う他、ドナルド・バード／ベッパ・アダム・クインテット、ラリー・ノヴァック・トリオ、ラムゼイ・ルイス・トリオ、カウント・ベイシー・オーケストラ等に参加。ベーシストとしてキャリアを重ねた後、プロデューサー、コンポーザー、パブリッシャー、アレンジャーとしても活動し、バーミングハムに自身のレコード会社を設立。クインテットやトリオでの活動以外にも、フランク・シナトラ、サラ・ヴォーン、エラ・フィッツジェラルド等とも共演。ジャズ以外にもミニ・リバートン等とも共演。74年以降は自身のグループ“クリーヴランド・イートン & Co.”。2004年以降は“クリーヴランド・イートン・アンド・ザ・アラバマ・オール・スターズ”として活動。アラバマ州のジャズ・ホール・オブ・フェーム、同州のミュージック・ホール・オブ・フェームに選ばれる。80歳となった現在、妻マイラ・イートンと共にアラバマ州バーミングハムで暮らしている。

アラバマ州出身、名トリオ、名オーケストラでも活躍した名ベースマン

ベーシストとしてだけでなく、プロデューサー、コンポーザー、パブリッシャー、アレンジャー、レコード会社代表としても活動したクリーヴランド・イートン。長いキャリアの中で数多くのアーティスト達と共演したが、中でもラムゼイ・ルイス・トリオのベーシストとして10年活動し、「ハンク・オン・スルービー」「ウェイド・イン・ザ・ウォーター」を含む4枚のゴールド・シングル、『ソーラー・ウィンド』『サン・ガッツス』を含む4枚のゴールド・アルバムに参加。また、カウント・ベイシー・オーケストラのベーシストとして16年に渡り活動したことから“the Count's Bassist”と称された。アラバマ州で生まれ、アラバマ州のジャズ・ホール・オブ・フェームとミュージック・ホール・オブ・フェームに選ばれ、“クリーヴランド・イートン・アンド・ザ・アラバマ・オール・スターズ”を率いる等、アラバマ愛も感じるいぶし銀のベースマンだ。

CE's Great Albums

自身のリーダー・アルバムは以下の3作品を含めて12作品リリースしているが、ラムゼイ・ルイス・トリオやカウント・ベイシー・オーケストラでの名演も聴いてみて欲しい。



ハーフ・アンド・ハーフ クリーヴランド・イートン (Gamble) [Import LP]

1973年に録音されたクリーヴランド・イートンの初リーダー・アルバム。ジャケットも新斬でファンキー&メロウなサウンドも衝撃的。全11曲収録。



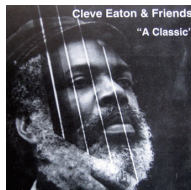
ブレンディ・グッド・イートン クリーヴランド・イートン (Black Jazz) [Import CD]

ウッドベースを手に凄む表情もインパクト大。1975年に録音されたクリーヴランド・イートンのファンキー&ソウルな3作目のリーダー・アルバム。



ストローリン・ウィズ・ザ・カウント クリーヴランド・イートン (Ovation) [Import CD]

1980年に録音された総勢21名に及ぶカウント・ベイシー・オーケストラのメンバー達とレコーディングしたイートンのアルバム。全8曲収録。



A・クラシック クリーヴランド・イートン&フレンズ (Cleveland Eaton Enterprises) [Import CD]

カウント・ベイシー・オーケストラの名ギタリスト、フレディ・グリーンと名アルト奏者クリス・ウッズに捧げたイートンのアルバム。1984年録音。